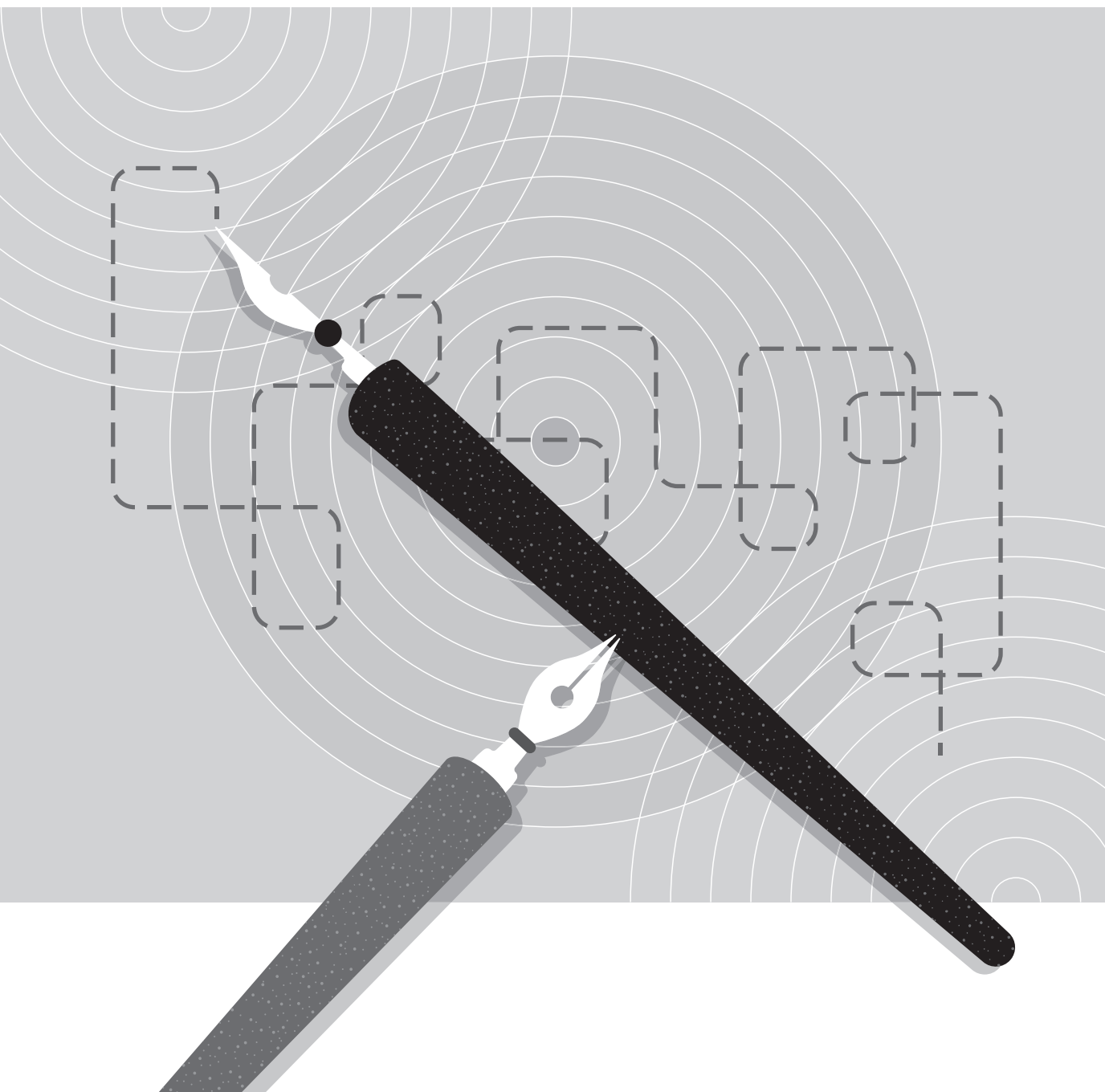


下手な“提案” 数打ちや当たる



下手な“提案”数打ちゃ当たる

はじめに	4
------------	---

第Ⅰ部 アイデアを提案にする基本プロセス

1章 発信力・提案力を強化し成長を実感しよう【意義】

1. 「下手は上手の元」—まずやってみよう	6
2. 提案や改善は組織と自分を成長させる	8
3. 発言や提案の決め手は“質より量”	10
4. 発信力は「発言」の回数に比例する	12
5. 「意見」は受け入れられるまで繰り返す	14
6. 下手だからこそ上手くなるために頭を使う	16
7. 自分だけで考えるより「集合天才」をめざそう	18

2章 問題意識を高める「観察力」を鍛えよう【着眼】

1. 提案アイデアを出すときの4ステップ	20
2. 問題意識が提案力を磨く	22
3. 「不」の網をかぶせて観察力を高める	24
4. 提案をゴロゴロ出す方法	26
5. 提案の助け舟を利用してみる	28
6. 3人寄れば文殊の知恵 —ブレインストーミング発想法	30
7. 仕事にユーモアを取り入れる提案	32
8. 観察力と思考力を鍛えるアイデアノート	34
9. アイデアノートの作成法	36
10. 提案力は人生を豊かにする	38
Column: メンバーの提案を促す方法	40

第Ⅱ部 称賛につなげる提案のチャレンジ

3章 ゲーム感覚でアイデア発想を楽しもう【着想】

1. アイデア発想のメカニズム	42
2. アイデア発想に迷ったときの「結合発想」	44
3. 他所からヒントをもってくる「借用発想」	47
4. 不用から価値を生み出す「転用発想」	48
5. 押してダメなら引いてみる「逆発想」	50
6. ケチをつけながらアイデアを出す「欠点列挙法」	52
7. その気にさせる「仕掛け」のアイデア発想	54
8. 「遊び心発想」でアイデアの質を高める	56
9. アイデア出しの継続が成功に導く	58
10. 創造的人間のすすめ	60

4章 受け入れてもらえる上手な「提案」をしよう【実践】

1. まず「発言」してみる —口火を切る勇氣	62
2. へこたれずに「提案」を楽しむ姿勢	64
3. 周囲が巻き込まれるメカニズム	66
4. 周囲を巻き込むテクニック	68
5. 上司との対話がヒントを生む	70
6. 上司にウンといってもらうために	72
7. 納得してもらえる説得力を身につける	74
8. 相手を唸らせる、一味違う「提案」をするには	76
Topics: デザイン思考とアート思考	78
Column: センスメイキング	79

第 I 部

アイデアを提案にする基本プロセス

第 1 章

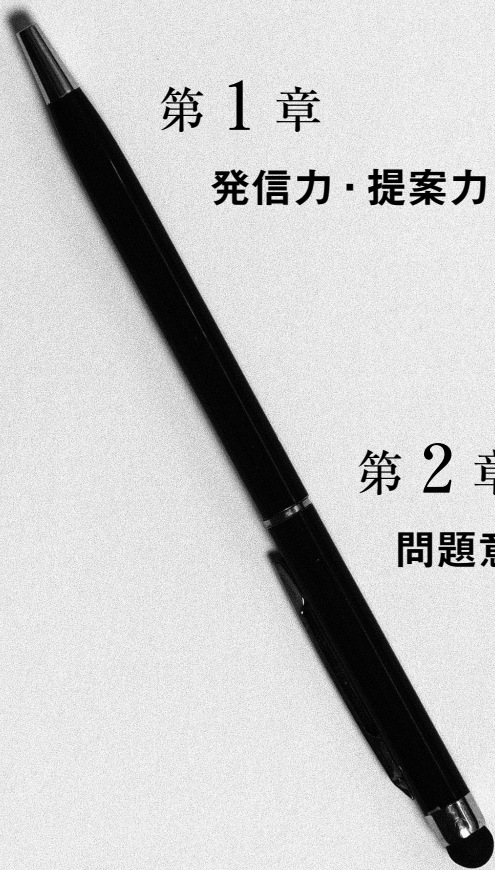
発信力・提案力を強化し成長を実感しよう

【意義】

第 2 章

問題意識を高める「観察力」を鍛えよう

【着眼】



発信力・提案力を強化し 成長を実感しよう

【 意義 】



「下手は上手の元」 —— まずやってみよう

◎ 下手な鉄砲も数打ちゃ当たる

『下手な“提案”数打ちゃ当たる』— この講座のタイトルの元になったのは「下手な鉄砲も数打ちゃ当たる」という諺ことわざです。辞典によると、「下手でも、数多くやっているうちにまぐれで成功することもある」と解説されています。そして、「下手でも回数を重ねるうちにいつか成功するという意味合いで使われる場合もあるが、あれほど多く繰り返せば誰だとうまくいくと、下手さ加減を冷笑したり、皮肉ったりする場合もある」と補足されています。

諺は、良い意味と、悪い意味が裏表になっていることがよくあります。こうした複雑さこそ、諺の面白さといえるかもしれません。それはともかく、成功につながる発想やアイデアが、まぐれであっても、偶然であったにしても、生み出されればしめたもの。カタチにとらわれない自由な発想がなければ、そもそも改善・改良・改革・革新につながる取り組みなどできるはずがありません。

改善 改良 改革
革新

◎ 「下手～」は「上手～」の6倍もある

「下手～」のつく諺はたくさんあります。

「下手な歌を歌うと味噌が腐る」「下手な番匠ばんじょう木の難を言う（腕の未熟な大工に限って材料の木に難癖をつける）」「下手の射る矢（どこに飛んでくるかわからない）」「下手の大連おおづれ（役に立たない者がぞろぞろと歩く）」「下手の長談義」「下手の長口上」など「下手～」を揶揄しているものがたくさん出てきました。

「下手の横好き」「下手の物好き」「下手の真似好き」「下手の横槍」などなど趣味や勝負事に関係する諺もかなりあります。「下手碁に持なし」「下手碁に駄目なし」「下手の長追い」「下手の長碁」「下手な将棋で金銀持って苦しむ」「下手の中飛車角の取り替え」など囲碁・将棋にまつわるものも少なくありません。極めつきは「下手の考え休むに似たり」かもしれません。

上手な人と下手な人の数を比べてみると、どうしても下手な人の数が多そうです。「下手があるから上手が知れる」——下手な人がいるために、優れた人が目立つ。比較するものがあるからこそ、その良さ、巧みさが明らかになる。それはそのとおりかもしれませんが、果たして「下手～」には何のとりえもないといえるでしょうか。辞典には、見出しに「下手～」のつく諺は74点もあげられていますが、「上手～」のつく諺は12点しかありません。しかも、「上手の手から水が漏れる」「上手はあれど名人はなし」など、必ずしも上手を評価していません。このあたりに仕事や生活の実相があると考えられます。

仕事や生活の実相

○上手、下手は問題ではない

上手、下手は比較したときにいえる相対的な話です。「下手は上手の元」という諺があります。「はじめは誰でも下手だが、練習を積み重ねることによって上手になるのだから、下手は上手になる元である」——と説明されています。また、「下手が却って上手」というものもあります。

下手は上手の元

下手が却って上手

「下手な人は物事に念を入れてやるのでかえって仕上げが立派なこともある。また、下手であることが幸いしてかえって身を安全に保つ場合もある」——ということです。

下手なことは必ずしも問題ではありません。“まずやってみよう”という考えこそ大事です。「下手な鉄砲も数打ちゃ当たる」の諺どおり、実際に“提案”が当たる（採用され、実現する）まで、提案をしつづけることが大切です。「失敗は成功の基」——はじめは誰でも素人であり、初心者。慌てず、騒がず、ゆったりした気持ち改善を楽しみましょう。

まずやってみよう

※この節は『故事俗信ことわざ大辞典第二版』（北村孝一・監修／小学館）を参考にしました

2

提案や改善は 組織と自分を成長させる

◎なぜ提案や改善が必要か

「なぜ改善は必要なのでしょう？」—改善をするのは当たり前だと考えていて、すでに日頃から改善を実行している人にとっては、改めてこんな質問を唐突にされると、かえって答えに窮するかもしれません。だからといって、「そんなことは当たり前だろう。つべこべいわずにアイデアを出せ、提案しろ……」といわれても創意工夫できるわけではありません。何かに取り組むときは、**納得**したうえでなければ本当に意義のある行動につながりません。

納得

なぜ改善を実行する必要があるか、その答えの1つは、世の中は常に変化していること、むしろ**変化は常態**であるという事実です。同じところにとどまっていることはできません。ぬるま湯に安住し、ゆでガエルになる——というたとえ話を考えてみればわかります。

変化は常態

もう1つ、**最初から完璧はない**という理由をあげることができます。どんなに完璧に見えるモノ（製品）であっても、完全にシステム化されているように見える仕事の仕方であっても、これでいいというゴールに到達しません。常に、見直しや工夫をして、改善する余地が見えてきます。完璧に近づくほど**あら**が見えてくるのかもしれません。おそらく、人間だけがこうした行動をできるはずです。

最初から完璧はない

◎提案や改善を通して成長を実感する

提案し、その改善が実行される、もちろん会社や組織（チーム）に大きな利益をもたらしますが、それ以上にそこに参加したメンバー（本人）も大きなものを手に入れます。それは何かというと、提案したり、改善を実行したりする過程で、ほかの勉強ではとても手に入れることができない、高水準の仕事の実力を身につけること。つまり提案や改善の実行は、自分を成長させる最も有効な勉強法といえるのです。

●図表1-1 改善に取り組むときのチェックリスト

区分	チェック項目	自己評価	伸長点/改善点
心構え	成果を急がず、過程（プロセス）を楽しむ なんでも見てやろう—野次馬精神を大事にする 豊かな発想は柔軟な思考にある—頭を柔らかく 今やっていること（今見えていること）を疑ってみる 何のためにやっているのかその目的を考える 「できない」ではなく「どうするか」を考える 限界に挑戦する（チャレンジ精神をもつ） アイデアをとりあえず口に出してみる 改善案は書き出してみる（アウトプットしてみる） 発言してみることで発信力を高める		
日常の仕事 の中で	何のためにやるのか仕事の目的を考える 仕事の優先順位を考える 仕事に集中する 仕事のスタートダッシュは鋭く 仕事中、気づいた点をメモに残す 進行状況をチェックし、早めに手を打つ 議論のための議論より、まず実行 ダラダラやるより、気分を変えて再出発を 仕事が終わったら今日の仕事を振り返ってみる 仕事の中に面白さを発見する		
チームの 仕事の中で	相手の立場に立つ思いやりをもつ 各々の機能分担・役割を考える 何をいつまでに、誰が行うかを定める 個人の立場でなく、チームとして何をすべきかを考える 作業の悩みはチーム全員で解決する 雑談を楽しむ（時には議論のための議論を） 厳しさの中にも明るさを忘れずに 改善活動の過程は記録に残す 結果はチーム全員で確認する 成果はチーム全体で享受する		
健康・ 心理状態	体を動かし、汗をかく 知恵を絞り、頭に汗をかく 人の考え、人の話（意見）をよく聞く 自分の考え（意見）をよく話す 自分にとって最適な規則正しい生活を		

これから必要とされる生涯を通じた勉強は、学校の勉強とは違いま
す。これまでは知識を覚えるインプットが中心だったと思いますが、こ
れからの勉強はどうアウトプットをするかが大事になります。何をす
るか考えるよりも、多くの知識を覚え、暗記して答えを書き終えたら忘れ
てしまっても大丈夫といったものであったかもしれません。

インプット
アウトプット

しかし、改善や創意工夫は違います。考えて、実行して結果を出すこ
とが必要だからです。そこにはたった1つの正解があるわけではありま
せん。答えは何通りもあります。それを自分で考えていくところに醍醐
味があります。

提案し、改善し、実行するときに必要な留意事項をまとめておきます
（図表1-1）。共通の「心構え」、「日常の仕事の中」や「チーム仕事の中」
で取り組む場合の留意点、さらには楽しく取り組むための「健康・
心理状態」の留意点をチェックしてみてください。